

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-96	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日探 081-902	高校日本史 改定版		

1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- * 基本的な日本の歴史の流れを把握する点に留意し、できる限り本文を平易に叙述した。さらに、図版や囲み記事などを設け、「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう留意した。
- * 学習指導要領に沿って、各章の導入と末尾に問いを設け、各時代の特色を探究するための学習の方向性を示した。また、本文などを読む際に、事象の推移や展開、意味や意義、解釈や画期を考察し表現できるように、「Q（問い）」を適宜設け、「真理を求める態度を養う」ことができるように留意した。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- * 「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が興味を持って資料から情報を収集し、読み取る技能を身につけることができるよう、扱う資料や叙述を工夫し、一連の学習によって「創造性を培えるよう」留意した。
- * 「Topic」や「読みとき」などの囲み記事を設け、生徒の興味・関心を引き出すとともに、多面的・多角的に考察する学習を通して、「自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * 「現代日本の課題の探究」では、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会の変容と文化の継承に関する主題を設定し、作業的で具体的な体験を伴う学習を重視した方法を例示することで、「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- * 特集ページ「周辺地域を学ぶ」を設けて、地域社会の生活基盤、生活様式や人々の考え方、自然環境、地理的条件などをふまえて考察できるよう工夫し、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう留意した。

教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

*全体として、歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史との関連付けを心がけ、国や地域の違いやその背景について気づかせるように配慮した。

*伝統や文化を視覚的に理解するための図版を豊富に取り上げ、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度」を養うことができるように留意した。

*広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる資質・能力を育成することができるような叙述を全体的に心がけ、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」を養うことができるよう留意した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 原始・古代	*部の冒頭では、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。	p. 5
第1章 日本文化のあけぼの	*また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。	
1 日本文化の始まり		
2 農耕の開始		
●歴史資料と原始・古代の展望		
①古代社会と海外との交流	*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。	p. 6～56
②木簡から古代国家をさぐる	*また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。	
第2章 古墳とヤマト政権	*第1章では、地球環境の変化が人間の生活に及ぼす影響について記述し、生命や環境への関心が高まるように留意した(第4号)。	p. 6～15
1 古墳文化の展開		
2 飛鳥の朝廷		
第3章 律令国家の形成	*「歴史資料と原始・古代の展望」では、周辺諸国との交流を示す文字資料や、古代の木簡を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。	p. 16～19
1 律令国家への道		
2 平城京の時代		
3 律令国家の文化		
4 律令国家の変容		
第4章 貴族政治の展開	*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。	p. 7～13、20～
1 摂関政治		21、23、27～28、
2 国風文化		38～41、44～
3 荘園の発達と武士団の成長		46、52～54
	*「古代の南九州一隼人一」など地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。	p. 47

<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の進出</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>●歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会をさぐる</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立と展開</p> <p>2 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>3 鎌倉文化</p> <p>第7章 武家社会の成長</p> <p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 下剋上の社会</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国の動乱</p>	<p>*部の冒頭で、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。 また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第5章では、古代から中世への変化に留意してその転換を記述し、中世という時代を通観することができるような構成につとめた(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と中世の展望」では、時代の推移を比較できる絵画資料を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。</p> <p>*「歴史資料としての文化財」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう、身近な文化財を取り上げた(第5号)。</p> <p>*「東北と奥州藤原氏」「琉球王国」などの地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>p. 57</p> <p>p. 58～106</p> <p>p. 58～67</p> <p>p. 68～71</p> <p>p. 64～65、82～85、98～102</p> <p>p. 67</p> <p>p. 66、106</p>
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <p>1 天下人の登場</p> <p>2 豊臣政権と桃山文化</p>	<p>*部の冒頭で、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。 また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p>	<p>p. 107</p>

<p>●歴史資料と近世の展望 朝鮮通信使</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 <p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化 	<p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第1号)。</p> <p>*第8章では、中世から近世への変化に留意してその転換を記述し、近世という時代を通観することができるような構成につとめた(第1号)。</p> <p>*「歴史資料と近世の展望」では、様々な立場で記録された朝鮮通信使についての資料を取り上げ、歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した(第2号)。</p> <p>*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた(第5号)。</p> <p>*「災害と文化財」「地域の文化財から歴史を探究しよう」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう身近な文化財を取り上げた(第5号)。</p> <p>*「アイヌと和人」など、地域を学ぶための特集ページを設け、人間と自然環境・地理的条件の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>p. 108～162</p> <p>p. 108～116</p> <p>p. 117～120</p> <p>p. 114～116、 132～133、142 ～145、150～ 152、159～161</p> <p>p. 121、162</p> <p>p. 146</p>
<p>第IV部 近代・現代</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足 <p>●歴史資料と近代・現代の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> ①議会と選挙権 ②生糸の生産 	<p>*部の冒頭で、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、部に関連する世界遺産の写真を掲載した(第5号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した(第3号)。また、日本の歴史が、さまざまな地域や人々との交流の中で、その影響</p>	<p>p. 163</p> <p>p. 164～273</p>

第12章 近代国家の成立	を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した（第1号）。	p. 164～173
1 明治維新		
2 立憲国家の成立		
第13章 近代国家の展開と国際関係	*第11章では、近世から近代への変化に留意してその転換を記述し、近代という時代を通観することができるような構成につとめた（第1号）。	p. 174～177
1 大陸政策の展開		
2 第一次世界大戦と日本		
3 ワシントン体制	*「歴史資料と近代・現代の展望」では、「議会と選挙権」「生糸の生産」に関する歴史資料を活用して多角的に考察し、仮説を表現するための手段や方法を例示した（第2号）。	
第14章 近代の産業と生活	*文化史は、時代背景や周辺諸国との交流と関連付けて叙述するとともに、伝統文化への理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財の図版を積極的に取り上げた（第5号）。	p. 218～227、 258、266
1 近代産業の発展		
2 近代の文化		
3 市民生活の変容と大衆文化		
第15章 恐慌と第二次世界大戦	*「学芸員体験で歴史を語る当事者になろう」など、伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう、身近な文化財を取り上げた（第5号）。	p. 191
1 恐慌の時代		
2 軍部の台頭		
3 第二次世界大戦		
第16章 現代の世界と日本	*「現代日本の課題の探究」では、主体的に地域社会の文化の継承や形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう工夫した（第3号）。	p. 274～279
1 占領下の改革と主権の回復		
2 55年体制と高度経済成長		
3 現代の情勢		
現代日本の課題の探究		
地域社会や身のまわりから考えよう		

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- * 中学校や歴史総合における学習の成果を活用できるよう、問いや叙述を工夫した。とくに、歴史総合の学習を発展させられるよう、近代・現代の構成を工夫した。
- * 地図・グラフ類の作成においては、色覚の個人差を問わず、多くの生徒に見やすいようにカラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性のある生徒にも読み取りやすい表現方法を心掛けた。
- * 本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。
- * インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、教科書に掲載された史料の現代語訳、重要年代と事項を確認できる年表、文字資料や動画・画像など歴史資料の一覧、を参照できるようにして、より深い学びにつなげられるようにした。
- * 学習上の便宜を考慮して、図版に番号を付し、関連する本文にも図版番号を示した。
- * 本文の流れを重視し、補足的な解説は側注で扱った。また、ふりがなや参照ページなども丁寧に付した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-96	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日探 081-902	高校日本史 改定版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色① 日本史の大きな流れを把握できる教科書

- *標準単位数3単位で履修されることを前提として編修し、基本的な日本史の流れをしっかりと把握する点に主眼をおいて、細部にとらわれず平易な叙述を心がけた。その際、歴史の展開に関わる諸事象について、意味や意義、伝統と文化の特色、世界史との関連などを適宜考察できるよう工夫した。
- *視覚的な理解を深め、興味を持って取り組めるよう、図版や資料を豊富に掲載した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさに配慮した。
- *図版・資料には節ごとに番号を付し、本文の該当箇所にも図版番号を示して、学習上の便宜をはかった。
- *本文の流れを重視し、補足的な解説は側注で扱った。また、ふりがなや参照ページなども丁寧に付した。

特色② 歴史的な理解や考察を促す様々な問いや資料

- *学習時の手がかりとして、段階的に問いを設けた。
 - ・各章の導入に章全体にわたる「問い」を配置し、時代の特色を探究するための方向性を示した。
 - ・各章の末に章のまとめの「問い」を配置した。各部のはじめの章(1章・5章・8章・11章)の章末の「問い」では、時代の転換を理解し、生徒が「時代を通観する問い」を立てるための指針となるように配慮した。その他の章の章末の「問い」では、根拠に基づいて「事象の意味や意義、関係性などを考察する」こと、あるいは「諸事象の解釈や画期を表現する」ことができるよう工夫した。
 - ・該当する本文の近くに、「Q(問い)」を適宜設け、学習の要点を捉えやすくするとともに、事象の「推移や展開」「意味や意義、関係性」「解釈や画期」を考察し、表現できるよう留意した。
- *「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、文字資料や絵画資料、遺物、統計・グラフ・表など多様な史資料を活用し、生徒自身が歴史を考察する力を養えるようにした。

- * 歴史総合の学習をさらに発展させられるよう、扱う範囲が重複する「第Ⅳ部 近代・現代」の構成を工夫するとともに、多面的な読み解きの活動ができるような図版・資料を取り上げて、歴史総合と異なる視点で歴史を捉えられるように配慮した。
- * 史料には2次元コードを付し、現代語訳を参照できるようにすることで、生徒の理解を助け、読み下し文と対応させて、読み解く技能も身につけられるよう工夫した。
- * 本文の内容に関連する動画を視聴できるよう、適宜2次元コードを付し、興味・関心を高めるようにした。絵画資料については、拡大図や、教科書に掲載した範囲の周辺、関連する画像も閲覧できるようにし、より深い学びにつなげられるよう工夫した。
- * 「読みとき」では、写真・文字資料・グラフ・地図などを用いて、図の読み取りや、複数の資料の比較、数値の変化などに着目し、解釈し表現する学習を通して、より深い学びにつなげられるよう工夫した。
- * 各部の扉には、各時代を世界史と関連付けて概観した年表を掲載し、さらに各時代に関連する「世界遺産」の写真も用いて、伝統と文化を尊重し、国際社会に主体的に生きる態度をはぐくむことができるよう配慮した。

特色③ 日本史への関心を高め、考察し、表現する力を身につける教科書

- * 「Topic」を75点設け、本文では取り上げなかった人物や事件などのエピソードを掲載し、歴史への興味・関心が高まるよう工夫した。
- * 特集ページ「周辺地域を学ぶ」を4テーマ設け、地理的条件と歴史的な諸事象の関係、地域性の比較に関わる視点、現在とのつながりに着目して、考察できるよう工夫した。
- * 「身近な文化財をまもり未来につなげること」を、4テーマ設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむとともに、博物館・図書館・資料館などの果たす役割に着目し、文化財保護への関心を高め、当事者意識をもって実践的な学習ができるよう工夫した。
- * 「現代日本の課題の探究」では、「東京の祭礼」「選挙」「果物生産と貿易」を具体例として取り上げ、伝統や文化の継承と創造、社会や集団と個人、世界のなかの日本について、諸資料を用いて考察するとともに、例えば「東京の祭礼」については、伝統文化の意味や役割を考察し、維持・継承に向け主体的に社会に参画する活動を身につけられるようにするなど工夫した。

そのほかの工夫

- * 表見返しには「古代の行政区画」、表見返し裏には「干支、時刻と方位、度量衡」、裏見返しには「政党・政派の変遷」を設け、学習の便宜をはかった。
- * 巻末には、詳細な「日本史年表」を付し、本文の叙述を補うとともに、歴史の流れを捉えやすいよう工夫した。また、充実した「索引」を設け、学習の便宜をはかった。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第Ⅰ部 原始・古代	A 原始・古代の日本と東アジア	(p. 5～56)	
第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化の始まり 2 農耕の開始	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境	p. 6～15	3
●歴史資料と原始・古代の展望 ①古代社会と海外との交流 ②木簡から古代国家を探る	(2) 歴史資料と原始・古代の展望	p. 16～19	2
第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	(3) 古代の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 20～28	3
第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容		p. 29～47	6
第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長		p. 48～56	4
第Ⅱ部 中世	B 中世の日本と世界	(p. 57～106)	
第5章 院政と武士の進出 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	(1) 中世への転換と歴史的環境	p. 58～67	3
●歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会を探る	(2) 歴史資料と中世の展望	p. 68～71	2
第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 3 鎌倉文化	(3) 中世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 72～85	6
第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立		p. 86～106	8

2 下剋上の社会 3 室町文化 4 戦国の動乱			
第Ⅲ部 近世	C 近世の日本と世界	(p. 107～162)	
第8章 近世の幕開け 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化	(1) 近世への転換と歴史的環境	p. 108～116、 121	3
●歴史資料と近世の展望 朝鮮通信使	(2) 歴史資料と近世の展望	p. 117～120	2
第9章 幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	(3) 近世の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)	p. 122～146	11
第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化		p. 147～162	8
第Ⅳ部 近代・現代	D 近現代の地域・日本と世界	(p. 163～273)	
第11章 近世から近代へ 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足	(1) 近代への転換と歴史的環境	p. 164～p. 173	3
●歴史資料と近代・現代の展望 ①議会と選挙権 ②生糸の生産	(2) 歴史資料と近代の展望	p. 174～177	2
第12章 近代国家の成立 1 明治維新 2 立憲国家の成立	(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	p. 178～191	5
第13章 近代国家の展開と国際関係 1 大陸政策の展開 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制		p. 192～211	7

第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代の文化 3 市民生活の変容と大衆文化		p. 212～227	6
第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦		p. 228～247	7
第16章 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復 2 55年体制と高度経済成長 3 現代の情勢		p. 248～273	10
現代日本の課題の探究 地域社会や身のまわりから考えよう	(4) 現代の日本の課題の探究	p. 274～279	2
予備			2
		計	105